

公立大学法人金沢美術工芸大学

第1期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）

業務実績報告書 訂正一覧表

平成28年7月

公立大学法人金沢美術工芸大学

□ 全体的実施状況

- 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 - (2) 教育の実施体制等に関する目標

【教育の質の保証に関する項目】

・外部認証機関の認証評価において指摘を受けた、学部における履修単位登録できる単位数の上限(49単位)と課程博士の取扱いの見直しについて、改善を実施した。




【追記】

・外部認証機関の認証評価において指摘を受けた、学部における履修単位登録できる単位数の上限(49単位)と課程博士の取扱いの見直しについて、改善を実施した。

シラバスの精粗については、各専攻・科の教務委員会に所属する教員が中心となって、各科目の到達目標、授業計画、成績評価基準等の記載状況を確認し、さらに教務委員会においてシラバス全体の記載内容を精査した。その結果を、自己点検・評価実施運営会議が検証し、シラバスの精粗の改善に向けて継続的に取り組む体制とした。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標


中期目標
 エ 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。

中期計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
	(H22~H27)		
(ウ) 卒業生やその就職先からの意見聴取などを通して、教育成果の検証が可能な仕組みを構築する。	<p>全学的に卒業生・修了生の意見を取り入れる仕組みを構築するため、H24年度から卒業・修了の確定した全学生に対して、2月に大学教育全般についてのアンケートを継続して実施している。</p> <p>集計結果は、自己点検・評価実施運営会議及び各科・専攻で確認、検討するとともに、毎年度継続的に情報を蓄積し、教育効果の検証を行い、その結果を大学ホームページで公開した。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【追記】 全学的に卒業生・修了生の意見を取り入れる仕組みを構築するため、H24年度から卒業・修了の確定した全学生に対して、2月に大学教育全般についてのアンケートを継続して実施している。</p> <p>集計結果は、自己点検・評価実施運営会議及び各科・専攻で確認、検討するとともに、毎年度継続的に情報を蓄積し、教育効果の検証を行い、その結果を大学ホームページで公開した。</p> <p>また、就職担当教員が企業を訪問する機会等を利用して、卒業生やその就職先において大学に対する意見を収集し、授業内容の改善や教育機材の充実を図った。</p> <p>なお、デザイン科では、卒業生やその就職先から収集した意見をもとに非常勤講師を採用し、教育に反映させた。</p> </div>	III	

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (2) 研究実施体制等に関する目標


中期目標

ア 特色ある研究活動を積極的かつ効果的に推進するため、研究実施体制や研究環境を整える。

中期計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由
	(H22～H27)		
(ア) 教員が研究に取り組むための柔軟な研究環境を整える。 【前期：現状分析、中期：改善】	各教員が教育、研究、社会活動、大学運営について調書を作成して負担を可視化するとともに、負担度や貢献度を評価するための教員評価制度について検討した。 H26年度からは、各教員が教育、研究、社会活動、大学運営の具体的な活動項目の中から目標を設定し、教員自身による一次評価と学長による二次評価を行う教員評価制度を実施した。教員評価を行うなかで、各教員の特色ある研究活動を、より幅広く個別に把握することが可能となり、多様な研究活動を推進するための研究環境の改善に活かすことができた。具体的には、サバティカル研修制度の導入を検討した。	III	
	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>【一部削除・修正】</p> <p><u>教員が研究に取り組むための柔軟な研究環境を整備するため、平成27年度第19回の教育研究審議会でサバティカル研修制度の導入を検討し、平成28年度の同制度の導入に繋げることができた。</u></p> <p><u>教員が教育、研究、社会活動、大学運営の具体的な活動項目の中から目標を設定し、教員自身による一次評価と学長による二次評価を行う教員評価制度を実施した。教員の特色ある研究活動を、より幅広く個別に把握することが可能となり、多様な研究活動を推進するための研究環境の改善に活かすことができた。</u></p> </div>		

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標


中期目標 市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。

中期計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由
	(H22~H27)		
カ 産学連携、地域連携などの推進を図るため、実施体制を強化する。	<p>社会連携担当理事を置き、産学連携や地域連携などを推進する体制を整えるとともに担当スタッフだけでなく事務局からの支援体制を組織化して、事業内容の決定から必要経費の算定まで迅速に事業展開できる体制を整えた。 【22年度完了】</p> <p style="text-align: center;"></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【追記、修正】 社会連携担当理事及び社会連携事業専任の「社会連携コーディネーター」を置き、産学連携や地域連携などを推進する体制を整えるとともに担当スタッフだけではなく事務局においても担当者を置くなどの支援体制を構築して、事業内容の決定から必要経費の算定まで迅速に事業展開できる体制を整えた。 【22年度完了】</p> </div>	Ⅲ	

業務運営の改善及び効率化に関する目標
2 事務等の効率化・合理化に関する目標

中期目標


新しい運営体制に即した事務処理を行うため、現行の事務処理を見直し、事務の効率化及び合理化を図る。

中期計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由
	(H22~H27)		
(2) 効率的な事務処理等を実現するため、大学運営に係る企画・立案能力や、学生・教務事務に関する専門知識を有した専門職員を任用・育成する。	<p>公立大学協会が開催する職員セミナー、法人会計セミナーに職員を派遣し、大学を取り巻く社会的動向や大学運営に関する専門知識を理解、習得させた。また、公共機関、民間企業等が開催する学生相談、奨学金、就職支援、教務、入試等の研修会に職員を派遣し、専門知識の習得と能力の向上を図った。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>【追記】 平成24年度から、学芸員及び財務や入試・教務に精通する事務職員を採用してきた。</p> <p>公立大学協会が開催する職員セミナー、法人会計セミナーに職員を派遣し、大学を取り巻く社会的動向や大学運営に関する専門知識を理解、習得させた。また、公共機関、民間企業等が開催する学生相談、奨学金、就職支援、教務、入試等の研修会に職員を派遣し、専門知識の習得と能力の向上を図った。</p>	III	

その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

中期目標 施設設備の利用環境を良好に保ち、有効に活用するため、常に利用状況を把握するとともに、施設等の機能保全や維持管理を計画的に実施する。

中期計画	業務実績 (計画の進捗状況)	自己評価	自己評価と異なる 評価委員会の評価 とその理由
<p>(2) 現在の施設設備機能の点検や教育の実施に必要な機能の研究を行い、適切なキャンパス計画を策定する。 【前期】</p>	<p>H22年度に策定した工房施設計画に基づき、青空教室（OAC）、図書館棟にメディア工房、グランド内に工房施設を整備した。 新キャンパス基本構想を策定するため、先進大学視察を行い、その成果を全教員に伝達した。 新キャンパス基本構想策定に関するこれまでの経緯を教授会において説明するとともに、意見交換を行い、新キャンパス基本構想検討委員会を発足させ、その検討結果を「金沢美術工芸大学新キャンパス構想」としてとりまとめ、設立団体の長（市長）に報告した。</p>		
		<p>III</p>	
<p>【自己評価修正】 新キャンパス構想を短期間で策定し、設立団体の長（市長）に報告まで実施したため、自己評価を「IV」に修正する。 【修正】 H22年度に策定した工房施設計画に基づき、青空教室（OAC）、図書館棟にメディア工房、グランド内に工房施設を整備した。 H25年度には、新キャンパス構想策定の準備として先進大学の視察を行い、その結果を全教員に伝達した。 H26年2月には、金沢市が策定した「重点戦略計画」において本学の金沢大学工学部跡地への移転整備が主要施策として位置付けられたことから、H26年度に新キャンパス構想検討委員会により新キャンパス基本構想の策定に着手し、学内各委員会、会議、センターからの意見聴取や、成美会、同窓会、在学生に対してのアンケート調査を実施した。 また、H27年度には、新キャンパス基本構想検討委員会を発足させ、構想策定に関するこれまでの経緯を教授会において説明するとともに、専攻ごとに新キャンパスに必要な機能のヒアリングを実施した。 こうした精力的な取組により、金沢市が策定した「重点戦略計画」において本学の移転整備が位置付けられてから2年という短期間で、その検討結果を「金沢美術工芸大学新キャンパス構想」としてとりまとめ、H28年2月に設立団体の長（市長）に報告した。</p>			